

# ちば里山新聞

(第73号)  
 編集発行 NPO法人ちば里山センター  
 袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148  
 ☎ 0438-62-8895  
 題字 倉島 貴浩  
 (ワークホーム里山の仲間たち)

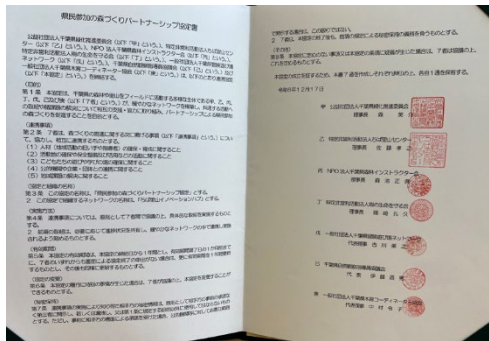
## ちば里山イノベーションハブ(CSI)パートナーシップ総合相談窓口

森林整備活動への新規参入、地域活動団体との連携・協働、活動団体への支援(寄付・協賛)、自主活動への協力依頼(業務委託)などの相談の受皿として、企業・団体・市町村向けの「パートナーシップ総合相談窓口」を開設し、皆様のご要望に幅広く対応いたします。



窓口(お問い合わせ先)は千葉県緑化推進委員会が担当し、ちば里山イノベーションハブを構成する7団体が連携して、必要に応じて県・市町村との連携調整も図りながら、皆様からの様々な活動や支援等のご相談に応じて、コーディネート致します。

地域の森林や里山をフィールドに活動する多様な主体が、共通の活動や課題に連携して取り込むことを目的



里山パートナーシップ7団体の協定書

に、パートナーシップによる連携・協働を促進するプラットフォーム「ちば里山イノベーションハブ(通称CSI)」を千葉県の中間支援組織など7団体連携して構築されています。そこで、里山をキーワードに活動している7団体〔①千葉県緑化推進委員会 ②ちば里山センター ③千葉県森林インストラクター会 ④樹の命を守る会 ⑤千葉県冒険遊び場ネットワーク ⑥千葉県自然観察指導員協議会 ⑦一般社団法人千葉県木育コーディネーター〕がパートナーシップ協定書を締結して「ちば里山イノベーションハブ(CSI)」として相互に支援・協力して情報や人的資源、機材、その他の機能を生かしていくことを目指しています。

## 【千葉県政策企画課】ちばSDGsパートナー登録のお知らせ

千葉県にて令和7年1月31日に登録された「ちばSDGsパートナー」右写真の「チーバ君」の画像が千葉県から承認を得て使用できるようになっています。ちば里山センターではちば里山新聞、ちば里山センターHP、職員・理事の名刺等に使用許可を提出して、SDGsへの取り組みを図っていきます。

尚、ちばSDGsパートナー「チーバ君」の画像を活用したい里山活動団体は、まずはちば里山センターへ連絡を下さい。いろいろと千葉県への使用手続きが必要となってきます。ちなみにチーバくんの17色はSDGs17項目を表しています。

ちば里山センター副理事長 尾形 孝和



## 多様な房総の森を訪ねて・令和6年度第3回里山カレッジ

1月30日午前8時千葉駅近くに参加者20人が集合し、最初の目的地東京大学千葉演習林に向かった。バス車中では参加者の自己紹介が始まり、里山カレッジではおなじみの顔ぶれもあった。続いて房総のヒメコマツ研究グループ遠藤良太代表から、冷温帯に分布するヒメコマツが暖温帯の房総丘陵に留まったため「垂直分布の寸詰まり現象」と名付けられ、氷河期の遺存種という歴史的な価値を有する房総のヒメコマツについて、研究グループの20年以上にわたる研究、保全活動の説明があった。

千葉県立中央博物館研究員を含む千葉県生物学会有志により発足した研究グループが2000年～2001年にかけて個体数調査を行った結果、現存するヒメコマツの野生個体はわずか97まで急速に衰退していることが明らかになり、千葉県版レッドデータブックで最重要保護生物となった。その後、東京大学千葉演習林、千葉県

県森林研究所が加わり、遺伝子保存、遺伝的多様性の検証、人工交配による次世代育成など様々な研究に取り組み、保全対策を進めているとする内容だった。

野生個体の著しい減少により絶滅の危険性が高まった場合に備えて、清和県有林内で補強試験を続け、同時にヒメコマツ系統保存サポーターが自宅等で育成も始めている。今回保存サポーター2組が参加していて、「ヒメコマツが命をつないでいることにもっと目を注ぐようになってほしい」と自宅での育成をレポートしてくれた。

ほどなくして東京大学千葉演習林清澄作業所に到着し、講義室で楠本林長補佐から演習林の概要、人工林、暖帯天然林にかかる研究課題、人工林の造成、施業、管理にかかる基本的データを収集し、成長に伴う林分構造の変化について知見の蓄積に努めるなど現状説明を受けた。

暖温帯生態系については温暖化等の影響によるモミ・ツガの将来予測や保全管理のデータ蓄積、マツノサイセンチュウ抵抗性マツの選抜、ヒメコマツの増殖法の確立を目指した研究が継続しているとのことだった。

次に、演習林内の野生ヒメコマツが自生する場所を見学、崖の先端、急斜面への変化点の上端部分。参加者は自分の目で確認しようと、崖地に足を踏み入れ、ヒメコマツの優しい五葉に触れ感動した様子だった。

ついで、清澄寺のセンネンスギと言われる大杉を見学した。その大きさに圧倒されるほどであったが、清澄の里山グループの人の話によると、おそらく「千年は経っていないと思うが、長い年月生きているのは確かだ。」と語っていた。昼食後はバス車中で元森林研究所長福島成樹氏から嶺岡県有林のヒノキ・スギの複層林について講義を受けた。

複層林施業の長所には保水機能の低下が避けられ、下層木の良質材が得られやすいこと、短所としては上層木の伐採・搬出に手間がかかることなどが挙げられた。複層林は上層木の伐採、搬出における下層木の損傷、下層木は光環境の影響から形状比(樹高/胸高直径)が高くなるなどの問題点が指摘され、今後は下層木を単木でなく帯状、面的に植栽する複層林が推奨されるとのことだった。

その後、千葉県南部林業事務所白井珠美課長と福嶋健一主査の案内で県有林の複層林の現場を見学した。近年、大雪の被害で下層木のスギの一部が全滅するなどの危機的状況乗り越えて複層林施業が継続しているとのことだった、下層木は形状比が高い、ひょろ長いことが際立つなど複層林の複雑な様子が見て取れた。ただし、年輪が密になる高品質材が求められることなど利用価値が広がっている点を教えてもらった。ちょうど隣接地での伐採集積現場で、作業の最中だったこともあり、ヒノキの香りに癒された。



普通の松に比べ弱々しいヒメコマツ



現場複層林の説明に納得

# 身近な森から生物多様性の森へ 千葉県由来の苗木育成プロジェクト実施中！

ちば里山センターでは、2022年12月に開催された生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)で採択された目標の一つ30by30(サーティー・バイ・サーティー)、すなわち2030年までに世界の陸域と海の少なくとも30%を健全な生態系地域として保全の達成しようという取り組みに、市民目線で参加するものとして、「千葉県由来の苗木育成プロジェクト」を進めています。



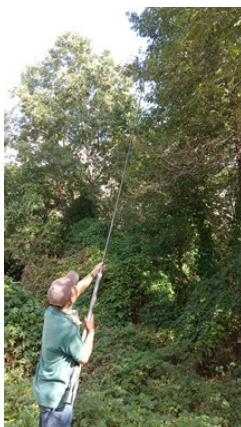
千葉県由来の苗木育成プロジェクトの概要

ナラ枯れ木や台風被害木を伐採して生じた千葉県内の里山の再生に用いる苗木を育てるための様々な広葉樹の種子を、遺伝的かく乱に配慮しながら千葉県内から採取して、会員の皆さんに提供しています。提供された種子は、里山団体により、市民一人一人により育てられる多様な樹種の苗木となります。そして、里山に植林され、より生物多様性に富んだ森に再生されます。昨年も50種近い種子を集めて、この春に19団体の約30人に種子を提供する予定です。ナラ枯れなどの被害木の伐採処理が進み、少しずつですが里山再生に向けて進み出しているようです。

種子が成熟する時期は、例えばサクラ類は5月頃、コナラは10月頃、トベラは12月頃と様々です。同じ樹種でも、遺伝的な違いや環境の違いにより成熟時期が異なるため、種子の採取に最適な時期を見極めるのは難しい作業です。また、春に一齐に播種できるよう、その時期まで種子を保存する必要があります。その方法は、種子の選別などから、種類によっては種子を覆っている果肉を取り除くなど、手間のかかる作業であり、試行錯誤で行っている樹種もあります。したがって、すべての樹種について十分な発芽や希望する種子を提供できる段階ではありませんが、会員の皆さんにご理解いただき、プロジェクトを進めています。詳しくは里山センターのホームページをご覧ください。

なお、皆さんの里山活動と同様に、これらの作業を会員有志のボランティアとして行っていますが、多少の資材費などが生じます。そこで、里山センターではこのプロジェクトへの寄付を募っています。

千葉銀行袖ヶ浦支店 普通口座 口座番号:3496053  
口座名義:特定非営利活動法人ちば里山センター 理事長佐藤孝之



上方の種子は、鎌のついた伸縮式の棒で枝を切り落とす(クロガネモチ)



果肉を除去して風乾している種子(ユズリハ)



処理した種子を湿った砂と混ぜて密封し、冷蔵庫や冷暗所で保存する(シロダモ)

里山じまん ⑱

おみがわ竹炭会

おみがわ竹炭会は1995年頃より荒れた森の下草刈りや竹を伐採して、竹炭を作っています。2001年よりは炭窯の普及活動をし、炭を使い土壌改良なども行っています。また、環境教育として、自然林の散策、蛍の保護見学、流し素麺、ハーモニカ・琴による森の音楽会等をおこなってきました。



小学生の記念品にと燻した竹にメッセージを記入



守山城跡で弓矢体験を楽しむ

会員は高

齢化の波に乗りまして、上は90歳と、後期高齢者となりました。自然の中で活動しますと、長生きしますね(笑)

活動場所の近くにある守山城址の土塁で行われる、弓矢体験は子供達から大人まで大人気です。



車椅子の子が、掘った初竹の子を手にして

また小学生の記念品にと炭窯にて燻した竹に、各自がメッセージを書く教室もおこなっています。

それから、普段は車椅子の子が、なんとしても自分で竹の子を掘り取り大喜びの暖か~いショットがあり、初竹の子を会員で味わいました。



4基ある炭窯の一つ

おみがわ竹炭会 武崎 けい子



ちばSDGs

ちば里山センターでは、里山整備を通じて環境問題や、地域の課題、子どもの教育に取り組んでいる団体を支援しながらSDGsで県民に親しまれる豊かな森づくりに取り組んでいます。

~ちばSDGsパートナー2386号~

~~~~~ つれづれごと ~~~~~

令和6年度内にちば里山新聞を6回何とか発行出来ました◆周りに叱咤・激励・鞭を浴びながら、やれば成せる、何事も実感しながら来年度も頑張りたいと思います◆感謝！(Y.A)

里山の風にゆられて ⑳



フキノトウ<蕨の墓>キク科フキ属

正しくはフキの花茎だが通称フキノトウと呼ばれている。早春2月中旬より始まって、天ぷらにするとほろ苦さがたまらなく、山菜の王様といってもいいくらいです。特に今年は豊作で自分はもう3回も味あわせてもらいました。

写真・文 赤松義雄 R7.3.7 袖ヶ浦市椎の森

入会申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓2号580-148 ☎0438-62-8895 FAX0438-62-8896(平日9:00~17:00)

E-mail [info@chiba-satoyama.net](mailto:info@chiba-satoyama.net) ホームページ <http://chiba-satoyama.net/>